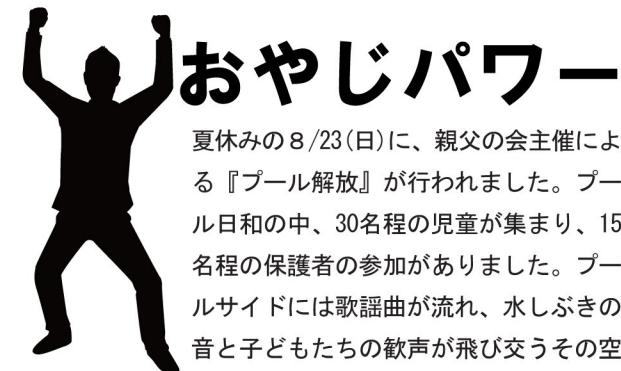


「命と夢のコンサート」



8/28(金)コスモスプラザ ふれあいホールにて「筑前町PTA連合会」の研修会が行われました。今年は、「命と夢のコンサート」と題し、合唱作曲家の弓削田健介さんと比留間光悦さんによるライブ講演が行われました。出逢いと別れを通して生きることの素晴らしさ、命の尊さをトークとピアノとギターによる演奏で、優しく語り掛けてくれました。手拍子で会場が一体感に包まれると、年甲斐もなく、涙が込み上げ、喉が詰まるような瞬間もあったりして…。「あなたがくだらないと思って過ごしている今日という一日は、昨日亡くなった人が、何としても生きたかった一日なんですよ」という言葉が、私の五臓六腑に突き刺さったままで…。



夏休みの8/23(日)に、親父の会主催による『プール解放』が行われました。プール日和の中、30名程の児童が集まり、15名程の保護者の参加がありました。プールサイドには歌謡曲が流れ、水しぶきの音と子どもたちの歓声が飛び交うその空間は、まるで小さなサンシャインプールの様…。乾いた喉をかき氷で潤し、奪われた体力を綿菓子で補いました。メインイベントの「親子対抗リレー」では、子ども2チーム、大人1チームの出場があり、飛び込みで距離を稼いだ大人チームが辛うじて優勝となり、大人気ないとのブーイングで幕を閉じました。年一回の企画ではありますが、この一日の為の準備が大変だったことと思います。親父の会の皆様、夏の思い出作り、ありがとうございました。



PTA奉仕作業

8/23(日)二学期を迎えるにあたり、地方委員指揮の下、奉仕作業を行いました。朝7時からとはいって、真夏の太陽の日差しの下、担当地区の保護者の皆様、そして先生方が力を合わせて清掃活動を行って下さいました。子どもたちが日々の大半を過ごす学校…。お陰様で、二学期も美化された環境で、子どもたちは学ぶことが出来ます。ご協力ありがとうございました。



ブックレビュー
読む(親も家読)

『最後の小学校』

秋山 忠嗣 著 講談社

PTA研修会で講演された弓削田健介さんの同窓生。中2の時に不登校になり、定時制に通い、教師を目指した著者が、唐津の向島の小学校でひとりの児童を相手に教育に取り組んだ記録。島という環境、児童が一人ということ、普通の学校とあらゆる点で違う中、先生として児童と向き合い、共に成長していく様子が描かれています。自問自答しながら、愛情をもって児童に接している秋山先生の優しさが伝わってきました。「子どもは大人の言うとおりになるものでなく、大人のしたとおりになる（する）ものだ」という教育の原点がここにあります。



9月

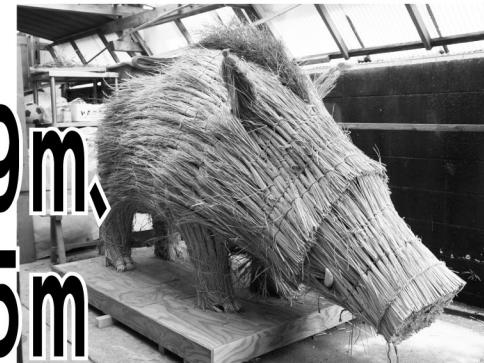
PTAスケジュール

■9/1.16朝のあいさつ運動 ■9/7運営委員会 ■9/12土曜授業(祖父母学級)・バザー

■9/23省テレビ・省ゲーム・家読

揺れる心

恋の話ではありません。7/7(火)、めくばーるにて『筑前町青少年育成町民会議』が開かれ、その中で櫻原照子さん(福岡県非行防止・ネット依存防止地域ミーティング)による『思春期の心のサインを見逃さないように/地域は子どもたちのサポートー』という講演がありました。少年犯罪の70パーセントは13歳から17歳の子ども。思春期は、子どもから大人への成長過程で生じる不安や不満から心が揺れ動き、親に気に掛けて貰いたい時期。親は、子どもにも対してのアンテナをもう一度張り直して、子どもの心をしっかりと受信してあげなくてはならない。まとめとして、子どもと同じ目線に立ち、共感してあげること。子どもの人格を尊重し、自尊心を大切にしてあげること。というお話をしました。



全長9m、
体高5m

さて、何の事でしょう…? 私たちが暮らす筑前町は、今年合併10周年。その記念に「どーんとかがし祭り」に向けて『巨大イノシシかがし』の制作を企画・進行中です。その大きさが、全長9m、体高5m。みんなの協力がなくては作るのが大変ですし、出来れば皆さんと一緒に作りたいと思います。9月27日(日曜日)13時からコスモスプラザ『多目的ホール』で、そのイノシシの体となる藁を編む作業を行います。是非、お父さんお母さんと参加して、筑前町の一大イベントに関わって欲しいと思います。

アイデンティティ。

みんな、誰もが日々不安を抱えながら生きています。そうした中で、自分の存在は何なのかを、ふと考えた時…。元々は心理学用語のアイデンティティ。日本語では「同一性」や「主体性」と訳されるみたいですが、よく分からぬ実態。簡単に言ってしまうと「私は私である」という事らしいけど、私が私であるという事を、自分が自分であるという事を周囲に証明するのは難しい…。自分の存在、あなたの存在、それは誰が認めるのか…。自分の存在を他と比較してしか把握できない、証明出来ないとなると、自分が他より優っているとか劣っているとか、そんな次元でしか判断出来なくなり、結果、他人を蹴落とすことで自分の存在を証明することになり兼ねない、とても危険な思考だと思います。外来語であるアイデンティティの実質は、漠然と生きていてはなかなか実感にくく、自分自身の目的意識や自立心を持って生きる努力をして行かなくては形成されないものかも知れません。自己主張は大切なことですが、それよりも、自らの行動により、周囲に自分の存在を認められることの方が素晴らしいことだと思います。子どもたちには、そんな人になって欲しいと願います。

